

2024.4.15

## 「エコシステムとしてのサローネ」プロジェクト

ミラノ工科大学デザイン学部とミラノ市の協力のもと、ミラノサローネ・ウィークがミラノに与える組織的、経済的、文化的、社会的、専門的な影響を理解するために、ミラノサローネが推進し、ミラノ工科大学デザイン学部が実施する、科学的根拠に基づいた調査と分析のプロセスが始まりました。

世界的なイベントであるミラノサローネ国際家具見本市(以下、ミラノサローネ)は、毎年4月の1週間、30万人以上の人々を魅了する人脈、創造性、革新のシステムです。積極性、熱意、企業、興奮を生み出す機会のネットワークによって、見本市とミラノ市に歓迎されています。にもかかわらず、これまで、見本市とそれを取り巻くあらゆるものとの相互作用や、見本市がミラノ市に与える社会的、経済的、環境的影響について、合理的かつ網羅的に、つまり科学的に研究されたことはありませんでした。

このような認識から、ミラノサローネは、ミラノ工科大学のデザイン学部とデザイン学科に、この関係をより探求し、サステナビリティ、インクルージョン(包括性)、サーキュラリティ(循環性)を促進するための調査を依頼しました。見本市と工科大学の意向のもと、「エコシステムとしてのサローネ」プロジェクトは、この現象を深く調査し、都市への影響を評価し、組織的、経済的、文化的、社会的、起業家的、専門的な一連の解釈の鍵を通して、レガシーと能力という観点から「ミラノ・デザインシステム」の資産にも分析を拡大するという目標を掲げています。この調査は、将来の「サローネ・デル・モービレ・オブザーバトリー」、すなわちミラノサローネとミラノ市に影響を与える機会と課題を特定することを目的とした恒久的な研究プラットフォームの基礎を築くことを意図しています。このオブザーバトリー(観測所)は、デザインウィークに関わる関係者の将来の判断をサポートし、導くための科学的な証拠を作成することを目的とし、このイベントをより持続可能で包括的なものにし、ミラノとその現在の政策との対話を図ります。

研究のオープンで包括的なアプローチに沿って、活動開始後数ヶ月の間に、ミラノ工科大学とミラノサローネとの横断的なワーキンググループは、デザインウィークの主な関係者、各地区、そして地域に根ざしたイベントの主催者まで巻き込み、数多くの会議を開催しました。制度面では、「エコシステムとしてのサローネ」がミラノ市ジュゼッペ・サラ市長の支持を受け、市の関連部局の協力を得ました。

### 調査方法と分析プロセス

調査は、民間および公的機関から提供された異種データベースの分析、デザイン・ウィーク関係者とのデータ収集プロセス、ミラノ工科大学デザイン学部の学生による現地観察活動など、さまざまな情報源に基づき、質的にも量的にも混合研究法を用い、4つの異なる分析レベルによる独自の解釈を提案しています。

#### レベル 1. Salone del Mobile.Milano | ミラノサローネの分析

ミラノサローネを、組織として(例:ガバナンス方針、持続可能性の道)、見本市イベントとして、質的・量的に分析。定量的な分析では、ミラノサローネが今回収集したデータ(例:来場者数、出展社数、外国企業・来場者の割合)をもとに分析を行います。

## レベル 2. ミラノデザインウィーク

ミラノデザインウィークという現象を考察し、各地区のイベント運営者へのアンケートを通じて、ミラノで開催されるイベントの数を分析します。これらの数字は、「パッション・イン・アクション」プログラムに参加するデザイン学校の学生による現地観察によって補完されます。構造化された観察プロトコルを通して、学生たちは、2024年ミラノデザインウィークのアクセシビリティと持続可能性を客観的に測定するための、一連の側面を検出することを課せられています。

## レベル 3. ミラノへの影響

デザインウィークがミラノ市とそのサービスに与える影響の視点を提供します。オープンデータとして利用可能なデータや、公共および民間のデータホルダーに関する定量的な分析が実施されます。このデータを解釈する主な鍵は、都市への経済的影響、都市の居住性への影響、環境への影響、都市の循環性管理です。この分析では、デザインウィーク期間中の2022年、2023年、2024年の数値の分散を、同じ年の他の都市活動の瞬間と比較して検討する予定です。

## レベル 4. ミラノ・デザイン・システム

ミラノ工科大学のミラノ・デザイン・システムに関する歴史的研究(1999年)、すなわちミラノ・デザインの経済と文化を実現する地域システムのアップデートを提供します。ミラノサローネを、このシステムの構成要素である職業、生産、トレーニング、文化、出版とコミュニケーション、あらゆる見本市とイベント、研究とイノベーションに関連づけます。この分析では、ミラノ・デザイン・システムとミラノサローネがどのように結びついているのか、また、一方の変化が他方にどのように反映されているのかに焦点を当てます。

この結果は、2024年10月にミラノサローネから発表される予定の最終報告書にまとめられます。

### ミラノサローネ代表マリア・ポッロ氏のコメント:

「さまざまな方向や環境から刺激を集め、文化的・社会的・経済的影響や、サローネ・デル・モービル・ウィークが引き起こす成長、レガシー、技能の伝承といった面での影響を調査することを目的とした調査プロジェクトを立ち上げることにしました。この責任ある取り組みにおいて、私たちは、科学的な厳密さをもって、このユニークな現象を分析し、短期的、中期的、長期的に都市の文脈に与える影響を強調しながら語り直すことができる、権威ある公平なパートナーを選びました。工科大学との協力とミラノ市の支援に感謝し、常設の観測所を設立すること、その日中に街で起こることを調査、観測、解釈するシステムを開発し、ケルメッセ全体の持続可能性、包摂性、循環性をより保証するための行動を促進することを目的にしています」

### ミラノ工科大学のドナテッラ・シュート学長のコメント:

「ミラノのようなダイナミックでクリエイティブな都市にいるということは、知識が詰まった発展の中心地として、ミラノサローネ開催期間を含め、ミラノの最も重要な現象を理解する責任を負うと



ということです。このプロジェクトにおいて、ミラノ工科大学は、デザイン・エコシステムの関係者(それだけではない)間のコネクターおよびファシリテーターとして機能し、共通のビジョンと目標を共に構築します。これは、持続可能で責任ある成長のために、機関、学界、社会、文化間の対話を活性化させる良い習慣の一例です」

## ステファノ・マツフェイ教授とフランチェスコ・ズーロ教授のコメント:

「ミラノサローネという名のエコシステムは世界でも類を見ないものであり、多くの模倣が試みられている。それは、毎年、技術、スタイル、行動、美の表現に関する新しい知識を創造するために、参加者と資源を伴う合唱現象である。工科大学は、方法論的アプローチとデザイン主導の姿勢で、データと情報を体系化し、それらを方向付けることによって、関係者間の対話を誘発し、サローネを筆頭に、運営者や機関がその持続可能性と美しさを高めるために、この現象をよりよく理解できるようにしたいと考えています」

本件に関するお問い合わせ先: 山本幸 [yuki@milanosalone.com](mailto:yuki@milanosalone.com)

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti [press@salonemilano.it](mailto:press@salonemilano.it)